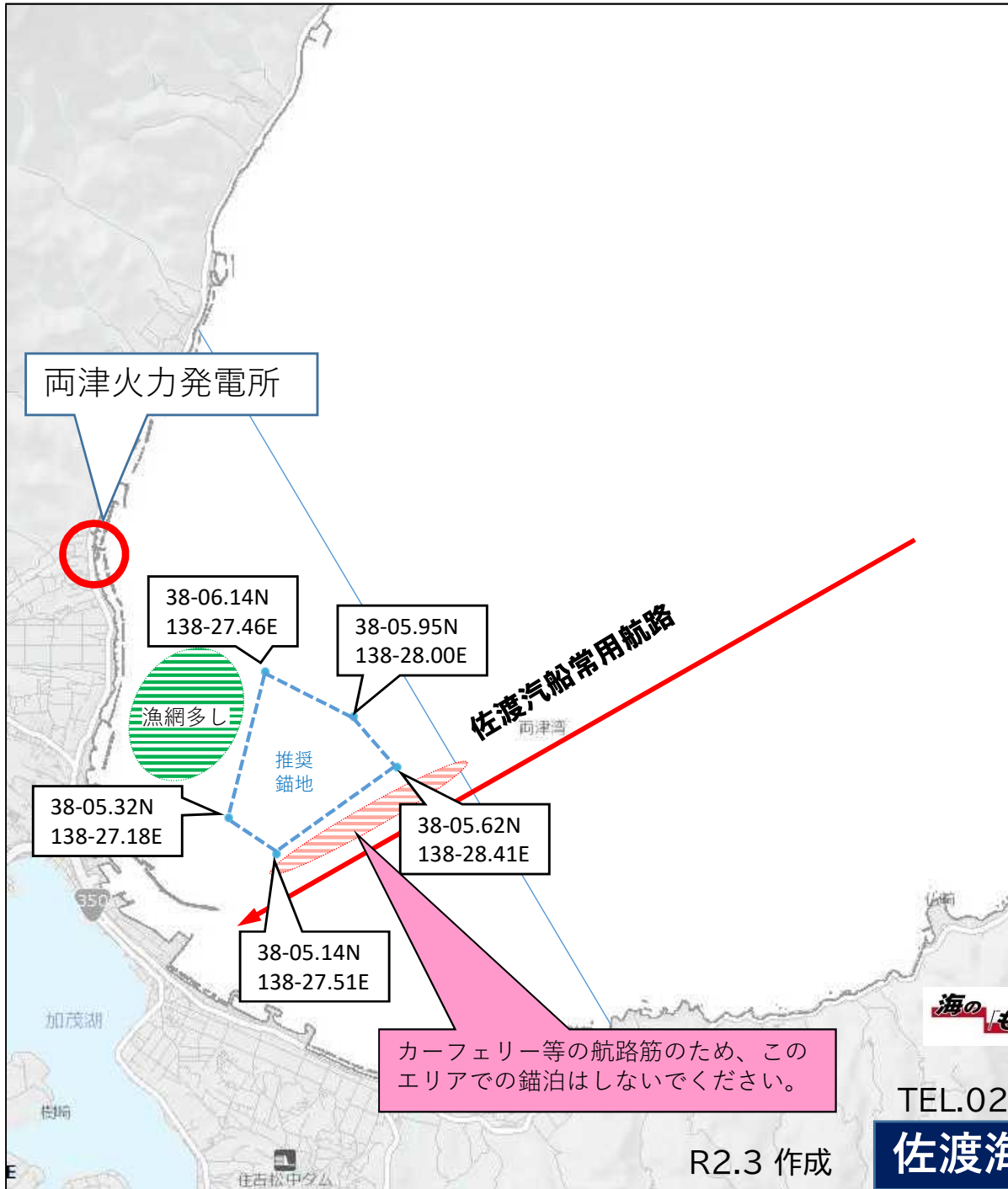


船橋に備え置いてください!

両津湾の地域的情報 (参考)



北西～西～南西と広範囲に閉囲されており、比較的錨地が広いことから、九管内では冬季北西風の卓越する時期に最もよく利用されている避泊地である。小型船で混み合うことから、1万トン以下の船舶の利用が殆どである。

避泊地名	両津湾錨地
錨地の位置及び範囲	①38-05.32N/138-27.18E ②38-06.14N/138-27.46E ③38-05.95N/138-28.00E ④38-05.62N/138-28.41E ⑤38-05.14N/138-27.51Eの5点で囲まれる海域
水深	25m～40m
底質	砂、泥
避泊可能な最大船型	全長120m程度(小型船で混み合うため、大型船には不向き)
錨かきの状況	良好であるが、東側は水深が深くなるため、深海投錨となる
漁具等の設置状況	陸岸寄りに定置網、刺し網があるため、陸岸に寄り過ぎるのは危険である
進入方法	陸岸寄りに定置網があるので、陸に寄り過ぎない進路にて進入する
周囲の地形	北西～西～南西の範囲で閉囲されている
風浪の影響	湾口が北から東側をむいているため、東よりの風の場合は不向きである
北西風の吹送距離(海里)	0.6～2.5
夜間入港可否	可
最大許容隻数	10隻程度
利用実態	九管内では一番広い避泊地で、内航船・外航船ともによく利用されている
その他注意事項	錨地の南側はフェリー航路であるので、これを避ける必要がある。錨泊船が多いため、1隻が走錨すると、他船の衝突や他船の錨鎖を引っ掛けて走錨を誘発する可能性がある。風が東側にまわる予報のある場合は注意が必要

海の安全情報

海の安全に関する情報をウェブサイトや電子メールなどにより、リアルタイムに提供しています。



海のもしもは118番

TEL.0259-27-0118

佐渡海上保安署

第九管区海上保安本部

船橋に備え置いてください！

両津湾の地域的情報（参考）

1. 気象・海象の特性

佐渡島全体としては冬季、西高東低の気圧配置により北西の季節風が特徴的であるが、両津湾についての風向別では、西南西、南西の風が卓越している。平成30年のデータを見ると年間を通じて平均風速は4～5 m/s、最大風速は15～25 m/sとなっている。

2. 錨地の特性

- (1) 北西～西～南西と広範囲に閉囲されており、比較的錨地が広いことから、冬季北西風の卓越する時期によく利用されている避泊地である。小型船で混み合うことから、1万トン以下の船舶の利用が殆どである。
- (2) 水深は25 m～40 m、底質は砂・泥、錨かきの状況は良好であるが、東側は水深が深くなるため、深海投錨となる。
- (3) 漁具の設置状況は、陸岸寄りに定置網、刺し網があるため、陸岸に寄り過ぎるのは危険である。
- (4) 錨地の南側はフェリー航路であるので、これを避ける必要がある。
- (5) 錨泊船が多いため、1隻が走錨すると、他船の衝突や他船の錨鎖を引っ掛けて走錨を誘発する可能性がある。
- (6) 風が東にまわる予報のある場合は注意が必要である。

3. 荒天時の錨泊実態

九管区では一番広い避泊地で、内航船・外航船ともによく利用されており、最大許容隻数は10隻程度である。
平成30年の両津港への緊急入域船は38隻、避泊日本船数は78隻であった。

4. 過去海難の発生状況

両津湾においては過去、走錨に起因する海難事故は発生していない。

緊急連絡先

海の_{もしも}は**118番**

●佐渡海上保安署(両津港長)
〒952-0011 佐渡市両津夷384番1
TEL.0259-27-0118

●新潟海上保安部(新潟港長)
〒952-0072 新潟市中央区竜ヶ島1-5-4
TEL.025-247-0118

各海域(港)最寄りの海上保安庁の事務所や地方運輸局で配布している走錨事故防止ガイドラインとともに、船橋に備え置いてください。

佐渡海上保安署

第九管区海上保安本部

R2.3 作成